

第3学年〇組 英語科学習指導案

指導者 ○○ ○○
ELT ○○ ○○

1 英語科研究主題 「英語によるコミュニケーション能力の育成」
ーコミュニケーション活動と発音指導による生徒の動機付けを目指してー

2 題材名 Program 2 「Volcanoes in Japan」

3 題材について

(1) 題材観

① コミュニケーションの観点から

本題材は、学習指導要領の目標を踏まえ、「(2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。」「(4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。」をねらいとして設定した。

本題材の内容は、リサと鹿児島に住む友人、太郎とのやりとりと、桃子が日本の名所を紹介している場面である。特に桃子が日本の火山について調べたことをまとめ、紹介する場面設定は、自分の考えや気持ちを伝える実践的なコミュニケーションの場としてふさわしい場面である。そこで、授業のまとめとして、6月に修学旅行を控えている生徒に京都の名所について紹介させることでコミュニケーション能力の基礎づくりをしていきたい。

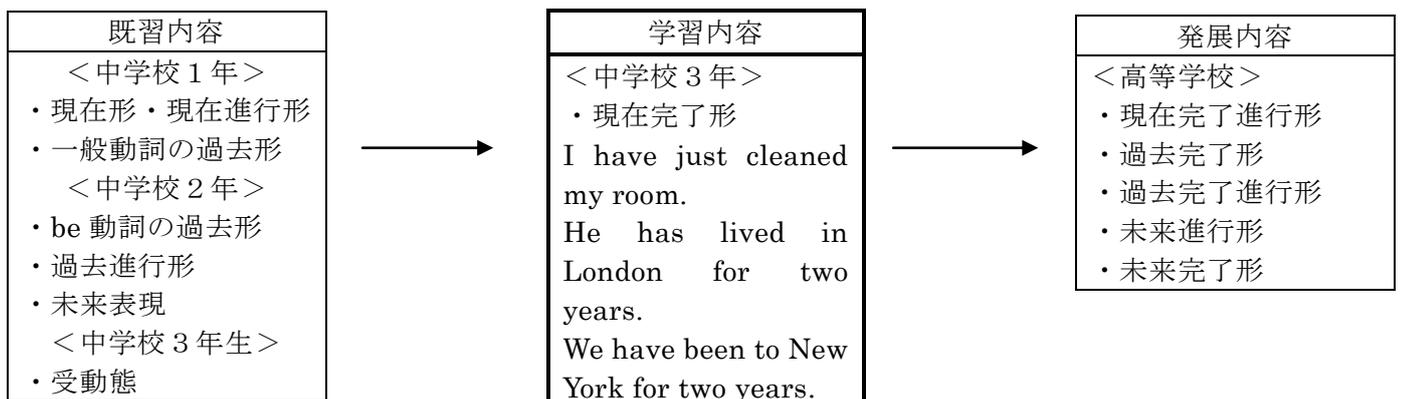
② 言語教材の観点から

言語材料としては、「ずっと～している」という意味を表す現在完了形の継続用法と「～したことがある」という意味を表す現在完了形の経験用法を表す文法事項が扱われている。Program 1 にて現在完了形の完了用法については学習済みではあるが、引き続き現在形や過去形とのイメージの違いに注意させながら指導していく。本題材では特に生徒が実際に継続して行なっていることや経験したことがあることを扱った言語活動を取り入れていく。生徒が自分自身のことを互いに英語で表現し合える楽しさを味わい、自己表現力を高められるようにしていきたい。

③ 国際理解の観点から

本題材に登場する鹿児島は、明治維新の中心人物を数多く生んだ地域であり、多くの観光資源に恵まれている。鹿児島を例にとり、自分たちの住む地域や歴史的・地理的な特徴について紹介するような、情報提供型の文章を読ませる。さらに、日本の火山について具体的な数字を挙げて説明する文章や、我が国の世界遺産について説明した文章を読み、それらを参考にして、京都の名所・歴史などについて、英語で発信する場を与え、英語を使って情報を世界に発信する積極的な態度を育成したい。

(2) 指導内容の系統



4 生徒の実態（28名）

（1）学級集団の実態

本学級は明るい雰囲気であり、英語学習に対する意欲は高い。コミュニケーション活動や音読等の活動にも楽しく、大きな声で取り組み、生徒の多くが英語の授業に対して積極的に取り組んでいる。一方で、コミュニケーション活動を苦手とする生徒や、英語で話すことに対して恥じらいを持つ生徒、また、英語に対して苦手意識を持つ生徒も数名見られる。

（2）題材に関わる実態について

・調査結果

調査人数；28名 調査実施日；4月27日

◎：よくできる ○：ほぼできる △：不十分

- ①英語を使って ELT や外国の人と自由に話せるようになりたい。
- ②英語の授業に積極的に参加することができる。
- ③「私はすでにそれを学びました。」という日本語を正しい英文にできる。
- ④英語で自分の考えを表現できる。
- ⑤ /yet / homework / finished / have / your / you / ? /（もう宿題終わった？）を正しい語順に並び替えることができる。
- ⑥ visit / write / be の過去分詞形を正しく理解している。
- ⑦基本的な英単語の知識が身についている。
- ⑧日本語と英語の音声上の違いを具体的な知識として理解している。

・考察

実態調査の結果から、ほとんどの生徒が英語の授業に積極的に取り組んでおり、「英語を使って ELT や外国の人と自由に話せるようになりたい。」とも考えていることが分かる。しかし、ソ・トの生徒はコミュニケーションへの関心がやや低く、ペアワークに対しても消極的な場面が見られるので、教師によるサポート・声かけを通して、前向きに取り組ませていきたい。また、◎の割合が多い生徒と、△の割合が多い生徒との二極化の傾向があるように思われる。英語を得意とする生徒が飽きずに、かつ英語を苦手とする生徒も楽しく授業に取り組めるように授業を工夫していく必要がある。

4月から授業中の指示の多くを英語で行なっていることもあり、数名の生徒が授業外でも指導者に英語で話しかけるなど、英語が非常に好きな生徒が多い。一方で、英語による指示を理解しきれない生徒もいるので、生徒一人一人の反応をよく見ながら、授業をすすめていきたい。週4時間・50分の授業をマンネリ化させることなく、数種類の warm up アクティビティーや小テストなどを実施し、日々工夫改善しながら、「英語でのコミュニケーションは楽しい。」と実感できるような授業をしていきたい。

5 題材の目標

- （1）自分が調べたことを英語で紹介し、積極的にコミュニケーションに参加しようとする。
＜関心・意欲・態度＞
- （2）京都の名所について調べたことを英語で紹介することができる。＜表現＞
- （3）現在完了形の経験・継続用法を理解し、これらを用いてコミュニケーション活動を行うことができる。＜理解＞
- （4）日本語と英語の音声上の違いに注意するとともに、日本の火山や世界遺産について親しむことができる。＜言語・文化＞

6 指導計画 (9時間扱い)

- (1) 現在完了の継続用法 1時間
- (2) セクション1の内容理解と音読 1時間
- (3) 現在完了の経験用法 1時間
- (4) セクション2の内容理解と音読 1時間
- (5) セクション3の内容理解と音読 1時間
- (6) 1, 2の単語テストと名所紹介の準備 1時間
- (7) 3の単語テストと名所紹介の準備 1時間
- (8) 京都の名所紹介 1時間 (本時)
- (9) プログラム2のまとめ 1時間

7 本時の指導

(1) 目標

①視線, 声の大きさ, 発音などに気をつけながら英語で紹介をしようとする。

<関心・意欲・態度>

②京都の名所について調べたことを英語で紹介をすることができる。

<表現>

(2) 展開

学 習 活 動 と 内 容	時配 形態	指 導 上 の 留 意 点 ● 学び合える場の設定の工夫	評 価 (方 法)
1 Greeting & Warm up ・ Good morning, class. (あいさつをかわす) ・ How are you, Mr. Stephen? ・ Have you eaten breakfast?	5分 一斉 ↓ ペア	○ ペアで簡単な挨拶や英会話をし, 英語を学習する雰囲気を作る。 ○ ELT とともにコミュニケーション活動が苦手な生徒への支援を行う。	
2 Let's introduce Kyoto's Places! How to make an introduction ・ ELT の発表を聞いて, 発表をする時のポイントを確認する。 ・ Eye Contact (視線) / Voice Volume (声の大きさ) / Pronunciation (発音) / Logical Development of Speech (構成) について確認する。	7分 一斉	○ 生徒に発問をしながら, 発表をする時のポイントを確認する。 ○ 前時の授業で回収し, 添削したワークシートを配る。	○ 発表をする時のポイントが理解できる。(発表・観察)
3 Prepare for the introduction ・ 添削をしたワークシートを清書用ワークシートに写す。 ・ 話し手を決める。	7分 グルー プ	○ 発表をする時の評価ポイントについて, 評価シートを見ながら確認する。 ● 分かりやすい紹介ができるように, 事前に記載したワークシートの文章構成などをグループで相談し, よい表現方法になるよう指導する。	○ 紹介の準備に真剣に取り組むことができる。(観察)
4 Practice on the introduction ・ 各自で自分が紹介する文の発音	7分 グルー プ	● グループのメンバーで発音の仕方などを互いに注意し合い, よ	○ 京都の名所について調べ

の練習をさせる。	プ	りよい紹介ができるようにさせる。	たことを英語で紹介をすることができる。 (発表・観察)
5 Introduction ・各グループ順番に発表をさせる。 ・見ているグループの生徒は評価シートに評価を記入する。	20分 グループ	○ 発表のポイントを再度確認し、意識をさせる。 ○ 発表をする姿勢・他のグループの発表を聞く姿勢ができていのかどうか確認する。 ○ 各グループの発表終了後は称賛の拍手を贈ることができるよう促す。 ○ 教師が最も良い紹介をしたグループを称賛する。	
6 Conclusion ・Self Evaluation Form を各自で記入し自己評価を行う。	3分 個別	○ 本時の授業を振り返らせることにより、今日何を学習したのかを再確認させる。	
7 Greeting	1分 一斉	○ 声をそろえて、クラスが一体となるように明るくあいさつができるようにする。	

(3) 教科研究主題に関する考察

本校の英語科では、「コミュニケーション能力」を「英語を使って相手の意向や自分の考え、またはお互いの情報を伝え合う能力」ととらえている。しかし、日常生活を考えてみると、英語を話さなければならない場面や状況はほとんどないというのが実情である。それらのことを踏まえ、英語科の授業では、身近な「言語の使用場面」や「言語の働き」を重視したコミュニケーション活動を工夫することにより、生徒の「自ら英語を話したい」という意欲を高めたいと考えている。また、ペアやグループで活動する場面を多く取り入れ、学び会える場を工夫することで、生徒が助け合いながら英語を学習し、英語を使用することに対する抵抗を少なくしていけるように指導していきたい。

また、Basic Dialog や本文の音読の前に個別の発音指導時間を確保し、英語の発音面から生徒に自信をつけさせ、英語を話すことに対する抵抗を少なくしていきたいと考えている。そのために、指導者自身がそれぞれの英語の発音を確認しながら教材研究を進めていく必要がある。